

石神遺跡出土の観音経木簡ほか

この春までおこなっていた明日香村・石神遺跡の調査で出土した木簡5点を紹介します。2が新聞等で報道された観音経木簡です。複数の考え方ができますが、「己卯年八月十七日白(もう)す。奉(たてまつ)る経の観世音経十巻を記し白すなり」と読めるとすれば、「己卯年(天武8年、679年)8月17日に御報告いたします。観世音経10巻をお納めいたしましたことを(この木簡に)記して申し上げます」という意味になると考えられます。観音経は観世音菩薩信仰の基本的な経典で、日本列島におけるその存在を示す最古級の史料です。石神遺跡近辺の貴族ないし皇族の邸宅から、観世音経の書写・転読などを依頼していたことを示唆しています。

1は「聖の御前に白す。小信法、謹しみて……賜らんと……」と読め、信法という人物が聖に対して何かをお願いした文書です。「小」は卑称の表現。右側にも墨痕が確認でき、何度も木簡を繰り返し使ったようです。きちんと削り取っていないことから、習書木簡の可能性もあります。3は「病いよいよ以て……」とあります。2でみた観世音経の書写・転読の背景に、もしかしたら貴人の病という事情があったのかもしれませんが。4の「和軍布」は「尔支米」(にぎめ)とも書き、ワカメのこと。5は部姓を列挙した木簡の一部です。「尾治」は「尾張」の古い表記です。「若麻績ア」は「わかおみべ」と読みます。「ア」は「部」の略体字です。古い時代は片仮名の「ア」のように書かれますが、少し新しくなると片仮名の「マ」に変化します。写真はいずれも原寸。(都城発掘調査部 市 大樹)



聖御前白小信法謹
賜